



有島壬生馬氏談

有島氏は伊太利に二年、巴里に三年の間留學して繪畫を研究し此程歸朝せられたる新進の畫家である。氏の噂は豫て藤島氏からも聞いて居たので一日往訪して其談を聞いた。(記者)

○私の伊太利に渡航したのは三十八年の春、丁度日露戦争の時で、途中が危険だと云はれた頃であつた。併し當時、戦勝の報に接して最も深き喜びを感じたものは、外國に居た日本人であつたであらう。特に伊太利國人の同情は非常に盛んなもので、我々の爲に勝報の達する毎に、盛んに祝意を表して呉れた。

○現代伊太利の畫界は寧ろ沈澱して居る。眞書きの様な細い筆で、友禪の下繪の様なものをコック／＼描いて居る多數の畫家がある、一つのデッサンで十幾枚書いたと云ふ様なことを誇つて居る、此連中は甚だつまらぬと思つた、中には天才肌の人もある、セガンチーニや、ポルヂニや、ミケッチーや、モンチーニの様な人も居るが、寧ろ曉天の星と云ふ趣がある。

○現今の伊太利の美術は羅馬でもヴェニスでも 大體に於て總て佛蘭西の影響の下にある。去年の秋ヴェニスで開かれた第八回の萬國美術共進會に出たガリレオ・キーニは古い伊太利風の裝飾畫から脱化して特色のある繪を畫いた、現今伊太利裝飾畫界では最も注意すべき人物である。

○有名なアカデミア・フランチェゼは、羅馬、ピンヂョ丘の上にある、羅馬賞を得た、巴里美術學校生徒の研究に來る處で、老大家カローリウス・チュランがデレクターをやつて居る。交際が上手で、派手な大使以上の生活をやつて居る。私は其處の夜學へも通つて見た。

○私は又随分多くの教師に會つて見たが、就て學ばうと思ふ人を見出さなかつた。遂に市の美術學校内にある、スコラ・リベラと云ふのへ行くことにした。スコラ・リベラは自由學校とでも譯さうか、そこではモデルが朝から晩まで立つて居て、自由に出入りすることを許してある、先生が來て見て呉れると云ふ様なこともない。室は大きく、大凡百五十人位は入ることが出来る。誰でも規定の手續をすれば自由に入學して稽古することが出来る。そして銘々勝手な教師を頼んで來て檢て貰ふ事も許してある。羅馬には教師を商賣にして居る畫家が澤山居る。外國から留學して居るお嬢さんの畫學生などを相手にして居るので、直ぐ一ヶ月、月謝四十圓とか五十圓とか云ふ様なことを云ふ。自由學校へは諸國の種々な青年が來て居るのは面白い。併し私は其處へも永くは行かなかつた。面白い友人が出來たから、相携へて旅行をしたり、寫生をしたりして勝手に研究を續けた。

『風』

景

セザンヌ



○羅馬には佛蘭西のアカデミアに倣つて、英吉利も西班牙も亞米利加もアカデミーを建てて居る、其外研究や視察や種々の目的を有つた美術家が諸國から澤山入り込んで居る。日本のアカデミーも一つ歐洲の何處かへ建てる様な事になつたら面白からう。

○羅馬市の美術學校は日本の上野のものに相當するであらうが、然し程度は低い、美術史や解剖學や透視畫法などを教へて居る。主にも畫學教師などを養成する所になつて居る様だ。

○其内二年経つて了つた、丁度米國に居た兄が來たから、私は相伴ふて瑞西、獨逸、和蘭、白耳義英國と歐羅巴の各國を巡つて視た。而して胸を轟かせつゝ近代の畫のある巴里に行つた。巴里も深く氣に入つた。

○巴里では、近處に住つて居る日本人同志が始終出會つた。私等の住つて居た中心はリウ・カンパニユ・プレミエールでルクザンブルに近い穢い町だ、近く開けた處ださうで、書生街即ちカルテラタンの近處であつた。馬車屋やソップの固めたのを製造する所や、繪はがきの製造所などがあるばかりで、其外には貸畫室が澤山あつた。一ツ番地で二百軒も畫室の長屋があつた。畫室は室だけで、銘々借り手が家具などを持ち込んで住む様にするのである。

○我々の仲間には藤島、白瀧、山下、岡、出口、齋藤(豊作)、梅原の諸氏が居られた。其後湯淺氏が西班牙から來、高村光太郎氏が英國から來、兒島虎次郎、和田三造兩氏が日本から來たので一時は盛なものだつた。



筆ヌンバヤシドスビウビ

『船風』

○其處から離れたリュード・テアトルにはジュリヤン等へ通ふ日本學生の連中が居られた。鹿子木氏などもその仲間居られた。

○カンパニユ・プレミエール町の近處には何十と云ふ私立學校が出來てゐて、それ／＼息渡名の有る先生を戴いて居る。中でもグラントシヨミエーやコイラロシなどは古い方で、日本人も前後に大分出入りしたから、日本では有名だ。氣樂な學校で金さへ拂へば自由に出入りが出来る。新派ではマチスを仰いで居る學校もある。モンマルトルにもそんな學校が二つもある。

○グラントシヨミエーには近年までコラン先生が出て居られたが、去年の秋休めて、今はルチアン・シモン。カスタールチオの二氏が主に出て居る。シモンは非常に聲望があつて、獨逸、露西亞、米國あたりの女生徒は神様の如くに尊んで居る。氏が來る様になつてから費用は従前の倍要るが、生徒は反つて殖えた。カスタールチオは西班牙の近頃賣り出しの畫家で始終生徒と一所になつて同じ畫室で畫を描いて居る、こんな教授法はこれまでない。平民的で人望がある。

○一體此頃の學生は、數年前の學生に比べると學校をつまらないものと思つて來たのは著しい變化だ。學校へ通ふ人は初歩の人か、極程度の低い人か、外國人か金持のお嬢さんなどが多い。眞面目に研究じやうと云ふ生徒は學校と云ふものに満足

しない。それで、自分で静かに書を描て見たり、研究をしたりする方を選んで、成るべく學校へは行かない様になつて來た。教師に對しても絶對な尊敬の念を懐かなくなつた。又第一流の大家とも云はるゝ人は多方徒弟を取らぬ。是が此頃の傾向である。是迄は學校でなくては研究が出来ぬ様に思つて居たが、今は個人々々別々の研究を重んずる様になつた。面白いと思ふ。

○それは近頃の美學者の説などに動かされた結果もある様である。アカデミーではアカデミーのシステムに依りて居る。自己と云ふものを無視して居る。それよりは自分々々で研究法を選定して銘々自分のシステムを立てて歩を進める方が



『鳩 旅』  
筆 ヌンバヤシ、ド、スビウビ

○美術學校やジュリアンなどは勿論アカデミックである、コロロッシンなども今では既に一種のアカデミックなものになつて終つた。

○畫界の大勢は常に漸次相接近する傾がある。春の展覽會でも、ソシエテ ナショナル デボザール(新)と、ソシエテ デザルチスト フランセー(舊)とは、元は大變な相異があつたので相對立して居たが、今は殆ど大差なしと云ふことが出来る。双方とも新舊の兩分子を含んで居る。唯秋の展覽會即ちサロンドオトヌヌは今の處大分違ふが、之とても早晩相接近するのであらう。人間はいつでも一處に停滞することを知らぬ様だ。

○サロン ドオトヌヌの一派は世間から外道視されて居る。勿論此派の作品も立派なものばかりでない、殆どへ難いものがある、然し何かそこから新しいものが、將來出やしないか

よいと云ふので研究も様々な方便が行はれる。勿論個人々々のヴァリアーションを重じて其處に興味を有つてやつて居るからである。或は旅行をして比較研究をしたり、一家の製作を殊に研究したり、或は人の氣がつかなくなつた古い藝術品を研究したりして居る。或は年中田舎に居て、年に一度か二度か展覽會でもある時に巴里に出て見て、教訓を受ける様に居るものもある。齋藤君や兒島君のやりかたも其れである。

○學校では大抵一週に二度宛先生が見に来るが、併し學校に行かなくても、好きな大家に會ふて説を聴く便宜はある、學校で聴くよりも親切に教を受けることが出来る。

○此三四年、巴里の畫界は慥に渦巻の中にある渦巻の中に居ると云つても、矢張り全歐羅巴の美術の大勢の根源は巴里から出て來る。英吉利から

も、獨逸からも、和蘭からも、西班牙からも、伊太利からも、畫家は皆巴里へ寄つて來ると云ふことを見て中心の巴里にある事は分かる。巴里には畫かき三萬人居ると云ふ、假令其數は確かでないにしても如何に其盛んなるかは想像が出来る。

○本號に掲載せる、ポール・セザンヌの畫もビウビ・ド・シヤパンヌの畫も私は大變に好きだ。如斯畫が出たのも歴史があり、系統があるから面白いので、唯突然其作を見ては、或は興味が少ないかも知れぬが、近世繪畫の歴史を通過して其系統を尋ねて見ると、如斯畫の出る徑路が明かに分るから面白い。セザンヌの事は、其中何か書いて見ますが、本月の『白樺』と云ふ雜誌紙上で可成詳しい話を書いて置きました、有志の方は御覽被下い。兎も角かゝる特色のあり大影響を今日の美術界に致した畫家が今迄日本に多く知れずに居たと云ふ事は私は深く遺憾に思ふ處です。

○巴里の籠城は千八百七十一年であつたビウビ・ド・シヤパンヌは丁度四十七歳にあたる筈だ。茲に掲ぐる二つの畫は此悲しい日の紀念として又ビウビスの數多から額畫(壁畫に對す)の二つとして、廣く世に寫真版などなつて行はれたものだ。批評家は云ふ此愛と悲の日、詩人文學者は徒らに愁と憤怒と失望に泣き沈める間に、翁は悠々と籠城中のエロイズムをたゞゆべく此二つの名作をなした。一つは『旅鳩』(Le Pigeon Voyageur)一つは『風船』(Le Ballon)と名づけられて居る。白はプロシアであらう、黒衣の女は佛國であらう、白い旅の鳩は巴里ではないだらうか、『風船』はガンベッタが籠城から抜け出してツールの方へ逃れて行くのを、ノールな權威のある、然し沈鬱な女性が挨拶して居る圖である。翁には巴里が多くの人の云ふ様に女郎の巢窟と卑しく見えなかつた。かくの如く清き高い使命を有する都と考へられたのであらう。

吾々は此二つの繪を眺め入る時、必ず熱い涙が眼に浮んで來る。

七十四年に此二つの繪はシカゴで抽籤法で賣却せられたと云ふ。(文責在記者)

前々號第八頁の餘白に掲げたアンリ・マラルタンに就ての藤島氏の話の終りの方にポアントランの事が混入したから正誤する



モデル 雜話

橋本邦助氏談

どうも格別話す程の事はありませんがね。今日も大阪の友人が來て話してましたがね、此頃大阪で仲間のものがモデルを雇つて畫をかいと、警察から調べに來たさうです、それから、畫學の上で人體研究が必要な事やら、東京では研究所でも、美術學校でも、皆モデルを使つて稽古をしてゐる事を話して聞かして、そして實地を見て下さいと云つて、稽古場へ案内をして見せると、

私が美術學校へ入學して間もなくの事でした、或時廊下で上品な若い女に出會つた。何か用事でもあつて來た人だらうと思つて居たら、それがモデルでした。お静と云ふので、體格の釣合がよくて、皮膚も綺麗で、乳も垂れて居ないで、顔は西洋人型とても云つた様な風で、私の是迄見たモデルの内では一番立派なモデルでした。それが暫くしてふと姿を隠して、行方が分らなくなつた。何でも酌婦になつて田舎に行つたかと云ふ風説があつた。博徒の情婦になつて田舎に居ると云ふ説であつた。其後新聞にお静と云ふ博徒の情婦が、其博徒に殺されたと云ふことが出たので、モデルのお静が殺されたものと皆が思つて居た。ところがモデルのお静は其實殺されたのではなくて、其後ち東京に來て、自分が殺されたと云ふ風説があつたのを聞いて、縁起が悪いと云ふので、二週間程學校に來て居た。そして又た突然姿を隠して了つた。其後電車の中でお静を見たこと云つた者があつた。眉を剃り落して姉子と云つた様な風をして居たさうです、矢張り博徒か何かの情婦にでもなつて了つたのでせう。

おじゆんと云ふのは八年ばかりモデルをして居る、モデルの先輩株ですね。妹もモデルにして二人で暮らして居る。モデルを職業にして居るのは此おじゆん位のものでせう。モデルも澤山居るが、大抵一時で止して了ふ。賃金ですが、矢張り普通のと違はないですが、おじゆん位になると多